

2017年 夏号

笑顔と心をつなぐネットワーク 明社通信

HEARTFUL

はーとふる

連載 『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』 活動紹介
福岡県・福岡明社

連載 地域の絆を再生する

第6回 心も体もゆっくり休まり、元気になる—「実家の茶の間」は、そんな居場所です。

被災地レポート 「わすれない、いつまでも」

第13回 地域復興支援センター「お茶っこはうすオアシス」

連載

『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』

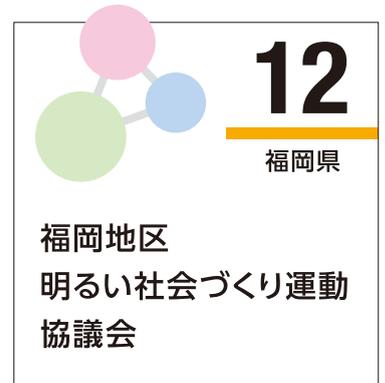
地域の人びとと共に活発な活動を行っている「福岡地区明るい社会づくり運動協議会」(林田スマ会長／以下、福岡明社)——。20地区に分かれて、それぞれが自治体、地域住民、企業などと連携し、長年にわたって継続してきました。そのなかで、福岡明社では、この春、開催された「平成29年度福岡地区明るい社会づくり運動協議会 総会」の席上で、3地区に「善行賞」を贈りました。同賞は、長年の取り組みを称え、表彰したものです。今回は、その3地区の活動を紹介します。



1960年代の和臼の海は、漁業や海苔養殖も盛んで、「白砂青松」といわれる美しい海岸は海水浴場としても親しまれていました。ところが、博多湾流域での急速な人口増加によって生活排水の流入や港の開発が進むなど、海

の栄養を吸収して育つアオサは、水深が浅く、日光が海の底に届きやすい場所に発生しやすいといえます。福岡県の博多湾にある和臼干潟も例外ではありません。

和臼干潟のアオサ清掃



※12は前回からの通し番号です。

を取り巻く環境は変化していきました。毎年9月から11月にかけてアオサが大量に発生し、和臼干潟に打ち寄せられて積るようになったのです。

アオサが長期間、干潟を覆ってしまうと、海底で生きているアサリなどの貝類やカニ類は生きることができなくなり、干潟の浄化力は失われてしまいます。さらに積ったアオサが腐ると悪臭を放つため、近隣の住民たちからの苦情が絶えなくなりました。そうした現状を知った福岡明社の理事を務める阪本英治さんは、2011年に福岡市が呼びかけた「市民によるアオサの回収作業」に17人のメンバーと参加。以来、回を重ねることにボランティアは増え、昨年は林田スマ会長も駆けつけて、90人の方々と心地よい汗を流しました。

今年も7年目を迎え、地域の方々との連携を深めながら環境保全活動を行っていくためにも、ボランティア募集のチラシを作成し、より多くの住民に参加を呼びかけていくことが目標だといえます。



福岡明社理事(東地区)
阪本英治さん

「アオサの回収作業の取り組みをしてきたなかで、地道に継続していくことの大切さを感じました。最初は少ない人数でしたが、いまでは家族総出での参加者もいます。美しく、暮らしやすい街をつくるためにも、自分たちの地域の環境を学び、地域の人びとと力を合わせて活動に取り組んでいきたいと思っています」

福岡地区明るい社会づくり運動協議会の取り組み

地区	事業内容	活動日
「校成ウインドオーケストラ」の公演開催		1回/年
古賀	古賀神社清掃 古賀市戦没者慰霊供養並びに慰霊塔清掃	1回/月 慰霊供養1回/年 清掃 隔月
粕屋	篠栗駅前花壇花植栽	2回/年
桜丘	隆照寺境内清掃	1回/月
東	名島神社清掃 和白干潟のアオサ清掃(福岡市との共催)	1回/月 1回/年
博多	住吉神社清掃 友田病院(縫製ボランティア) 特養老人ホーム「さくら園」奉仕	1回/月 〃 〃
中央	光雲神社清掃 博愛会病院の老健センターの傾聴ボランティア	1回/月 〃
大楠	堀川公園清掃 地域清掃	1回/月 〃
南第1・第2	国立福岡病院の縫製ボランティア	1回/年
城南	西堤ヶ丘池公園清掃	1回/年
早良	養護老人ホーム「恵風苑」慰問(七夕、クリスマス) 徳栄寺あじさい植樹、手入れ	2回/年 1回/年
西	姪浜住吉神社清掃	4回/年
伊都・糸島	幣の浜松苗植樹(NPO法人里浜つなぎ隊に協賛)	4回/年
太宰府	太宰府天満宮七夕飾り(太宰府天満宮と共催) 太宰府天満宮清掃(九電工と共催)	7/1~7日 1回/年
筑紫野第1	武蔵寺清掃	1回/月
筑紫野第2	筑紫神社清掃	1回/月
筑紫野第1・2春野	養護老人ホームむさし苑縫製支援	1回/月
小郡	大刀洗空襲慰霊供養(地元自治会との共催)	1回/年(3月)

後で作業を行っています。そして現在、18か所の幼稚園と1040枚の短冊が寄せられています。また、最近では外国からの参拝者も多く、短冊に自分の夢を楽しそうに書いている姿が見られます。

太宰府天満宮権禰宣
毛利清彦さん



「神社の境内には、四季折々の季節を感じさせてくれる自然を眺めることができます。七夕飾りもその一つで、季節の風物詩には欠かせないものです。色とりどりの短冊が、風に揺れている光景は美しく、心を和ませてくれています。毎年、その準備を明社のみならず、さらに九電工さんとの境内清掃を共働作業にも協賛いただき、有り難く思っております」



福岡明社事務局のみなさん
(左から、谷久雄さん(事務局次長)、
谷口正和さん(事務局長)、宮原悦子さん(事務局))



福岡県の東南に位置する朝倉郡筑前町は、かつて東洋一とも呼ばれた西日本における陸軍の航空拠点・大刀洗飛行場を中心とする一大軍都がありました。この飛行場は、全国の特攻隊員教育訓練拠点地として数多くの若き特攻隊員たちの出撃を見送った場所でもありました。しかし、1945年3月27日、飛行場の空襲によって施設群は壊滅状態の被害を受け、地域の住民、特に小学生50名の避難場所に爆弾が直撃し、全員が即死状態という悲惨な状況で、多くの人びとの尊い命が奪われたのです。

大刀洗空襲慰霊供養



福岡明社理事
(小郡地区)
棚町良雄さん

「毎年、3月27日に行なわれる『筑前町大刀洗平和資料館』の記念館行事『ピースキャンドル』の準備、飾り付けなど会場準備を明社のメンバーでお手伝いさせていただいています。いま、平和の時代に生きていることに感謝し、次世代に平和の大切さを伝えていきたい、そう願いながら活動をしています」

「たい」と、犠牲者の慰霊をはじめたのは1994年のことでした。当初は、自宅の仏壇で行なっていたのですが、地域の人々の賛同を得て、「明るい社会づくり運動」として準備委員会を立ち上げ、公民館で開催するようになりました。

以来、毎年、空襲のあった3月に開催し、今年で25年目になり、町長をはじめ町議会議員、区長様に参加いただけるようになりました。この慰霊供養は、自分たちの住んでいる地域の歴史を学び、平和を築く心をはぐくむ機会になっています。

これからの明るい社会づくり運動・3つの方針

—2014年の『全国都道府県会議』で発表した、本運動がこれから目指していく具体的な3つの方針—

- 1 地域のために活動している諸団体と連携し一緒に活動を行い、身近な問題に取り組む市民運動として展開していく。
- 2 行政等の実施する地域活動や催事に積極的に参加し、行政との信頼関係を築いていく。
- 3 地域に合ったさまざまな活動をきっかけに、地域社会に貢献したいという願いをもった個人・団体へ積極的に呼びかけ、善意の実践の場を提供していく。

これら方針に基づく活動を今後も紹介していきます。



「明るい社会づくりの一環として、太宰府地区で何かできることはないだろうか？」と3つの目的①青少年の育成 ②環境問題 ③社会福祉のテーマに基づいて話し合いをしました。そして、「明るい家庭づくり、住みよい地域づくり、世界の平和のための地域活動を目標に掲げました。その結果、「太宰府天満宮の境内に七夕飾りを設置させていただき、小さなお子さんたちの願いや夢を短冊に書いてもらおう」ということになったのです。

太宰府天満宮の快諾を得ると、12か所の幼稚園に働きかけ、700枚の短冊が届きました。2000年7月1日、境内の大鼓橋近くに12本の笹竹を準備し、飾り付けをしました。また、当日は、「育てていますか？ 豊かな心」をテーマに「七夕祭り文化講演会」を開催しました。

その後、太宰府天満宮と共催で七夕飾りを行うようになり、今年で18年目になりました。毎年、一般市民をはじめ地区会員合せて60名前

太宰府天満宮七夕飾り